

登録コード	UAF50500	開講年度	2026				
授業題目	学習環境デザイン特論					担当教員	谷塚 光典
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。					学習環境デザインに関する高度な知識・技能を獲得する。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。					学習環境デザインに関する課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を獲得する。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。					学習環境デザインに関する独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を獲得する。	
(2)授業の概要	eラーニングやインストラクショナル・デザイン等に関する各種資料・文献・実践事例などをとりあげ、分担部分の発表と全体での討論を行い、最終的に現在の教育・研修における諸課題を解決する学習環境を実現するための教材・コンテンツの活用手法を提案する。 次のように授業を進める。 1. 「学習環境デザイン」に関する文献のレポートと討議：発表者は、「学習環境デザイン」に関する文献を探し、担当回の前回の授業で配布する。そして、次の2観点でレジュメをまとめて、授業前日までにeALPSにアップロードする。(1) 該当文献の購読を通じて、分かったことと疑問に思ったことをリストする / (2) 疑問に思ったことについて調査を行い、その結果分かったことを報告する。授業時には、レジュメに沿ってレポートする。 2. 指定された教科書のレポートと討議：発表者は、次の2観点でレジュメをまとめて、授業前日までにeALPSにアップロードする。(1) 該当章の購読を通じて、分かったことと疑問に思ったことをリストする / (2) 疑問に思ったことについて調査を行い、その結果分かったことを報告する。授業時には、レジュメに沿ってレポートする。 3. 学習環境デザインに関するフィールドワーク：実際の教育・研修へ参加・参観し、次の2観点でレジュメをまとめて、授業前日までにeALPSにアップロードする。(1) 教育・研修への参加・参観を通じて、分かったことと疑問に思ったことをリストする / (2) 参観・参加した教育・研修の改善策を提案する。授業時には、レジュメに沿って討議を行う。						
(3)授業計画	授業計画 1 「学習環境をデザインする」とは 2 インストラクショナル・デザインの基礎理論 3 学習目標明確化の3要素 4 ブルームのタキソノミーとガニエの学習成果の5分類 5 課題分析図の作成 6 ガニエの9教授事象 7 目標・指導・評価の一体化 8 目標に応じた評価方法 9 学習意欲を高めるARCSモデル 10 協同的な学びのデザイン 11 学習環境デザインに関するフィールドワーク（1）効果を高める工夫 12 学習環境デザインに関するフィールドワーク（2）効率を高める工夫 13 学習環境デザインに関するフィールドワーク（3）魅力を高める工夫 14 学習環境デザインに関するフィールドワーク（4）改善策の提案，リフレクション 受講者の研究領域や興味関心，時事的な背景に応じて内容や計画を変更することがある。 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 発表（50％），議論への参加（50％） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	「卓越している」：担当回のレポートでは設定したテーマの学習環境デザインについて自己の関心や教育界の動向に基づいて詳細に調査して深く考察しており，グループ討論ではディスカッションに積極的に参加して他の学生の意見を引き出しつつまとめ役をしている。 「かなり上である」：担当回のレポートでは設定したテーマの学習環境デザインについて詳細に調査して考察しており，グループ討論ではディスカッションに積極的に参加しつつ他の学生の意見を引き出しつつしている。 「やや上にある」：担当回のレポートでは設定したテーマの学習環境デザインについて調査しており，						

(5)成績評価の基準	グループ討論ではディスカッションに積極的に参加している。 「水準にある」：担当回のレポートでは設定したテーマの学習環境デザインについて調査しており、グループ討論ではディスカッションに参加している。
(6)事前事後学習の内容	● 事前学習としては、eALPSにアップロードしてある配布物を事前にダウンロードしたり、eALPSに掲載してある関連URLからWebサイトを閲覧したりすることによって、問題意識を明確にしたうえで授業に参画する。 ● 発表者は、発表レジュメを作成してプレゼンテーションの準備を行う。わかりやすいプレゼンになるように、一定の時間をかけて準備する。発表者以外は、発表者が作成した発表レジュメを読み、討論したい点を明確にしたうえで授業に参画する。 ● 事後学習としては、授業内容について振り返りを行ったり、書籍やWebサイト等で復習したりして、次回以降の授業の課題意識を明確にする。 ● この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(7)履修上の注意	● 心理学分野の学生を対象とした授業である。 ● 「認知工学特論」を合わせて履修することが望ましい。 ● WiFi接続可能なノートPCやタブレットPCを毎回持参すること。
(8)質問,相談への対応	● 長野（教育）キャンパス 北校舎2階 N211・谷塚研究室 ● オフィスアワー：メール予約で随時 yatsuka@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	● 教育の方法と技術 Ver.2（改訂版） https://www.kitaohji.com/book/b616916.html
【参考書】	● 学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル https://www.kitaohji.com/book/b585982.html ● 学習設計マニュアル https://www.kitaohji.com/book/b581361.html ● インストラクショナルデザインの道具箱 101 https://www.kitaohji.com/book/b581362.html ● その他、授業の中で適宜紹介する。